

CT 検査説明書

- X線とコンピューターを用いて、体の断層（輪切り）画像を撮影していきます。
- 検査は5分～20分程度です。
- 仰向けになって検査をします。
- 上顎～鎖骨部分にかけて検査する際に、取り外しのできない入れ歯やインプラントなどがあると、きれいに映らないことがあります。
- また、検査当日から1週間以内に、バリウム検査を受けた方でバリウムがお腹の中に残っている場合もきれいに映らないことがあります。
- 造影剤というお薬を使いながら検査をする場合があります。午前中の検査であれば朝食を、午後の検査であれば昼食という具合に、念のため検査直前の食事は抜いてきて下さい。
- 造影剤使用に際し、検査予定日から3か月前までの、腎臓の働きを調べる血液データがない場合は、メディカルシティ東部病院にて血液検査を行います。その場合、検査結果が出るまでに約45分お待たせいたします。予めご了承ください。
- 通常、検査に伴う痛みはありませんが、造影剤を注射しながら検査をする際に、ごく稀に針を刺しているところが痛くなることがあります。
- 造影剤を使って検査する場合は別紙の造影剤使用同意書で詳しいご説明をいたします。



CT 造影検査説明書（院外依頼用）

以下の通り概要を説明します。「必要性」と「副作用」をご考慮の上、造影剤の使用にご同意いただける方は別紙の「CT 造影剤使用同意書」にご署名の上、メディカルシティ東部病院職員へお渡しください。

なお、一旦検査に同意し署名された後でも同意を撤回することもできます。

1. 造影剤使用の必要性について

造影剤を静脈内に注射し、血管や色々な臓器を見えやすくします。腫瘍などの病変もわかりやすくなり、正確な診断ができます。

2. 造影剤の副作用・合併症について

造影剤による何らかの副作用が 100 人中 3 人くらいの頻度で起こることが学会等で報告されています。多くは熱感、かゆみ、じんま疹といった軽い症状で治療の必要はありません。ただし、冷汗、血圧低下、呼吸困難、ショックといった重篤なものが、1,000~10,000 人に 1 人くらいの頻度であり、極めてまれに重篤なショックでの死亡が 30 万人に 1 人の頻度で報告されています。また、以前の造影検査で症状がなかった方でも、その後の検査で副作用、合併症を生じる場合があります、注意が必要です。

3. その他の重篤な副作用について

極めて稀なため発生頻度は不明ですが、上記の重篤な副作用の他にも次のようなものがあります。肺水腫、せん妄、錯乱、健忘症、麻痺、意識障害、失神、痙攣発作、肝機能障害、黄疸、心室細動、冠動脈攣縮、皮膚障害、血小板減少など。

4. 緊急時の対応について

上述のような副作用が発生した場合は、検査担当医師や看護師が適宜対応致します。重篤な副作用、偶発症が起きた場合は、他科の医師と協議し必要な処置を行いますが、症状によっては入院治療等が必要になることがあります。その際の診療も通常の保険診療にて行います。

5. 検査前の処置について

検査前の食事は基本にご遠慮ください。水分摂取の制限はありませんが、乳飲料製品はご遠慮ください。お薬の服用は、担当医師にご確認ください。また、検査当日に体調が悪い方は、担当職員へお申し出ください。

6. 検査後の生活について

造影剤は尿と一緒に排泄されますので、普段より多めに水分を摂取して下さい。食事も普段通り摂取して頂いて構いません。ただし、検査後数時間から数日間に発疹、かゆみが出ることがあります。その際は、かかりつけ医、及び、メディカルシティ東部病院（電話：0986-22-2240）にご相談ください。